# 東京都医師会 定例記者会見

2022年4月12日(火) 東京都医師会副会長 角田 徹

# 引き続き都民の皆様にお願いしたいこと

- 標準的感染予防策の継続
  - マスクの適切な着用・手洗い(手指消毒)・換気・三密回避(感染状況を考えて)マスクを外した会話・食事の場の制限
- ・<u>ワクチン(追加)接種の徹底</u> 可能な限り(追加)接種を
- 適切で頻回の感染検査現在のような感染状況(感染者が周囲にいる可能性が高い)では、マスクを外しての複数での会話や食事の前には、迅速抗原検査等を行ない感染機会の低減を

#### 2 個人防衛と社会防衛

予防接種を受けた人はその感染症から守られています (個人防衛)。多くの人が予防接種を受けることにより社会全体からその感染症が減り、結果的に予防接種を受けていない人たちも感染症から守られることになります (社会防衛)。

また、ワクチン接種にかかる費用は、ワクチン接種をせずに病気にかかってしまった際の検査や治療費に比べ、圧倒的に安くすむことが分かっています。予防接種は医療経済的な面からも意義があるとされています。

以上により、予防接種により感染症を予防し、国民の健康の維持・増進を図ることはきわめて重要であり、国の政策として推進する必要があります。また、交通機関の発達により感染症のグローバル化、ボーダレス化が進んでいる現在、予防接種は、国の危機管理として大きな意義を持っていると言えます。

#### ≥ 自然に感染したほうがいいのでは?

麻疹や水痘などの感染力の強い感染症では、一度かかってしまえば一生続く免疫ができるので、二度かかりしないと考えられています。

そこで、予防接種をせずに自然にかかってしまえば、その方がより自然で良いのではと考える方もい

予防接種の目的・意義は、

らっしゃるかも知れません。しかしながら、自然にかかった場合には、強い免疫を獲得できることが多いですが、一方で感染症を発症することによって、まれに起こるいろいろな合併症(例えば、脳炎や肺炎など)を



起こす危険もあるわけです。また、自分が病気にかかることにより、周りの人にその病気を広げてしまうこともあります。

したがって自然にかかり合併症を起こすリスクと、 予防接種により自然感染を避けることができるメリットを考えれば、やはり ワクチンで予防できる病気は、 ワクチン接種で予防するのが最善の方法である とい うことは言うまでもありません。

予防接種の普及や、公衆衛生の改善により感染症 が減少してくると、ワクチンで感染症を予防すること のメリットが見えにくくなります。一方で副反応など の予防接種によるデメリットが目立ち、そればかりが クローズアップされやすくなります。

ワクチンで予防できる病気が増えた現在、予防接種の意義について正しく理解し、予防接種のメリットとデメリットについて冷静に判断してワクチンを接種する姿勢が、接種する側、接種される側、両方に重要です。

	発現割合	症状		
		コミナティ(ファイザー社)	モデルナ(武田薬品)	
かう、、ッ	50%以上	接種部位の痛み、 疲労、頭痛	接種部位の痛み、 疲労、頭痛、筋肉痛	
いい。症とど	10~50%	筋肉痛、悪寒、関節痛、 下痢、発熱、接種部位の腫れ	関節痛、悪寒、吐き気・嘔吐、 リンパ節症、発熱、 接種部位の腫れ、発赤・紅斑	

コミナティ添付文書、COVID-19 ワクチンモデルナ添付文章より

(※)接種部位の痛みや腫れ、紅斑

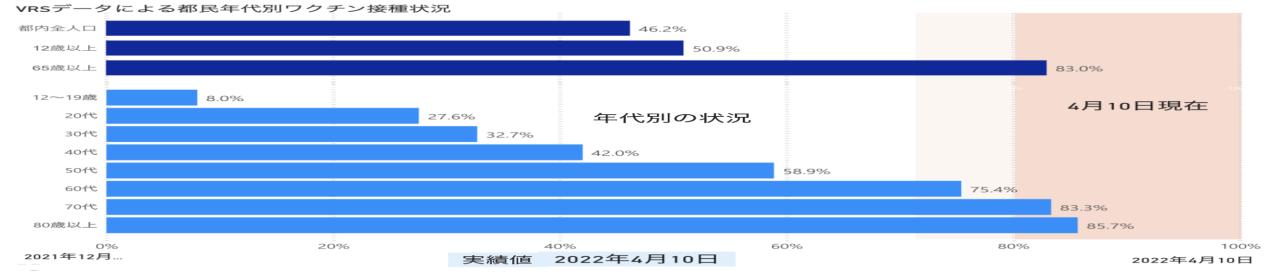
接種後7日以降の

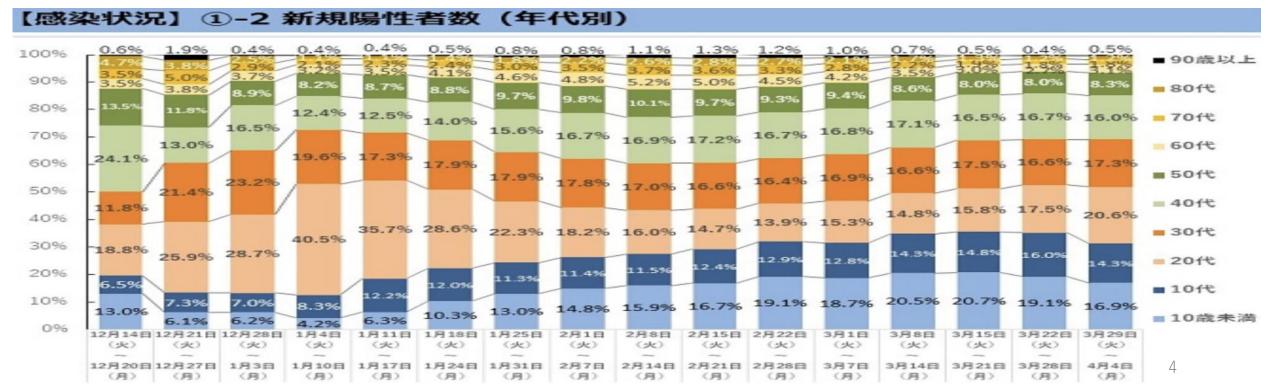
]女「主 ロ) LLV/JE ( い、 JL /)) 「ルルル

接種部位の痛みなど(※)

- ① 一人一人がその病気にかからないように個人を病気から守ること(個人防御)。
- ② 皆さんの住んでいるコミュニティ、つまり、集団での感染拡大を防ぐこと(集団防御)。
- ③ 予防接種を受けたくても受けられない人たちを感染症から守ること(集団免疫)。

の3つがあげられます。





# <u>オミクロン株への感染予防効果(72~47%)</u>

結果: オミクロン株に対する感染予防効果は以下の通りであった※3。

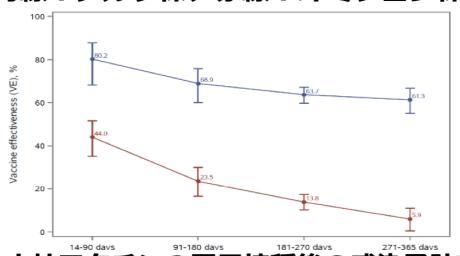
- **2回目接種後**:症例群19,395例、対照群38,790例 が解析された。
  - 14-90日経過後 44.0% [95%CI: 35.1-51.6]
  - 91-180日経過後 23.5% [16.4-30.0]
  - 181-270日経過後 13.8% [10.2-17.3]
  - 271日経過後以降 5.9% [0.4-11.0]
- **3回目接種後**<sup>※4</sup>:症例群11,217例、対照群22,434例が解析された。
  - 14-60日経過後 71.6% [69.7-73.4]
  - 61日経過後以降 47.4% [40.5-53.5]

著者らは以下の通り報告している。

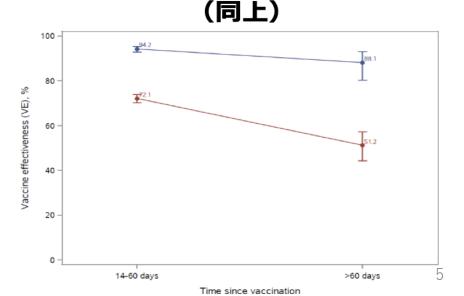
• オミクロン株に対するモデルナ社ワクチン3回目接種の感染予防効果はデルタ株に対する効果より低かった。

(厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会資料より抜粋)

#### モデルナ社ワクチン2回目接種後の感染予防効果 (青線:デルタ株、赤線:オミクロン株)



# モデルナ社ワクチン3回目接種後の感染予防効果



## オミクロン株への発症予防効果(65~69%)

### 3回全てmRNAワクチン※4を接種した場合

- 対デルタ株: 0.16 [95% CI: 0.14-0.17]発症予防効果: 84.5% [83.1-85.7])
- 対オミクロン株: 0.34 [0.32-0.36]発症予防効果: 66.3% [64.3-68.1])

### 3回すべてファイザー社ワクチンを接種した場合

- 対デルタ株: 0.17 [0.16-0.19] (発症予防効果: 約83%)
- 対オミクロン株: 0.35 [0.32-0.37] (発症予防効果: 約65%)

### 3回すべてモデルナ社ワクチンを接種した場合

- 対デルタ株: 0.13 [0.11-0.15] (発症予防効果: 約87%)
- 対オミクロン株: 0.31 [0.28-0.34] (発症予防効果: 約69%)

(厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会資料より抜粋)

#### mRNAワクチン追加接種の発症予防効果

Table 2. Association Between Omicron or Delta Symptomatic SARS-CoV-2 Infection and Prior mRNA COVID-19 Vaccination Among Adults 18 Years or Older Tested in the Increasing Community Access to Testing Platform, December 10, 2021, to January 1, 2022

	SARS-CoV-2 variant	Total test-positive	Total test-negative	OR (95% CI)			
Vaccine type evaluated		cases	controls	Crude	Adjusteda	Q value <sup>b</sup>	
3 Doses vs unvaccinated <sup>c</sup>							
Any 3 doses of mRNA vaccine <sup>d</sup>	Delta	5723	27 308	0.063 (0.058-0.069)	0.065 (0.059-0.071)	1 001	
	Omicron	5853	27 308	0.34 (0.32-0.36)	0.33 (0.31-0.35)	<.001	
3 Doses of BNT-162b2e	Delta	5508	19239	0.076 (0.069-0.084)	0.077 (0.070-0.086)	<.001	
	Omicron	4906	19239	0.36 (0.34-0.39)	0.35 (0.32-0.38)		
3 Doses of mRNA-1273 <sup>f</sup>	Delta	5216	15 395	0.045 (0.038-0.052)	0.045 (0.038-0.053)	<.001	
	Omicron	4143	15 395	0.28 (0.26-0.31)	0.28 (0.26-0.31)		
3 vs 2 Doses <sup>c,g</sup>							
Any 3 doses of mRNA vaccine <sup>d</sup>	Delta	5249	38 043	0.16 (0.14-0.17)	0.16 (0.14-0.17)	<.001	
	Omicron	9686	38 043	0.35 (0.34-0.37)	0.34 (0.32-0.36)		
3 Doses of BNT-162b2e	Delta	3526	22 581	0.17 (0.16-0.19)	0.17 (0.16-0.19)	- 001	
	Omicron	6208	22 581	0.36 (0.34-0.39)	0.35 (0.32-0.37)	<.001	
3 Doses of mRNA-1273 <sup>f</sup>	Delta	1670	14039	0.13 (0.11-0.15)	0.13 (0.11-0.15)	<.001	
	Omicron	3251	14039	0.32 (0.29-0.35)	0.31 (0.28-0.34)		

#### 新型コロナワクチンのオミクロン株BA.1、BA.2に対する発症予防効果

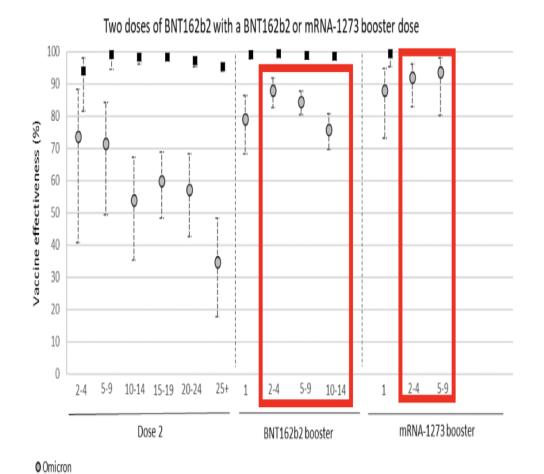
	BA.1	BA.2
	(VE(95%CI))	(VE(95%CI))
2回目接種後25週以降	10% [9 –11]	18% [5 – 29]
3回目接種後2-4週	69% [68–69]	74% [69–77]
3回目接種後5-9週	61% [61 – 62]	67% [62-71]
3回目接種後10週以降	49% [48 – 50]	46% [37-53]

# <u>オミクロン株に対する入院予防効果(92~83%)</u>

### 新型コロナワクチンのオミクロン株に対する入院予防効果

Dose	Interval after dose (weeks)	OR v symptomatic disease	HR vs hospitalisation	VE vs hospitalisation
1	4+	0.74 (0.72-0.76)	0.57 (0.38-0.85)	58% (37-72)
2	2 to 24	0.81 (0.8-0.82)	0.45 (0.36-0.56)	64% (54-71)
2	25+	0.94 (0.92-0.95)	0.6 (0.49-0.74)	44% (30-54)
3	2 to 4	0.32 (0.31-0.33)	0.26 (0.19-0.35)	92% (89-94)
3	5 to 9	0.42 (0.41-0.43)	0.29 (0.23-0.37)	88% (84-91)
3	10+	0.5 (0.49-0.51)	0.34 (0.26-0.44)	83% (78-87)

### 初回シリーズにファイザー社ワクチンを接種した者における、 ファイザー社又はモデルナ社ワクチン追加接種後の入院予防効果の推移



۲.

■ Delta

Time since Vaccine (weeks)

# 昨日(2022/04/11)の感染状況

• 東京都

感染者数 1,331,486人 死亡者数 4,236人

・日本

感染者数 7,084,340人 死亡者数 28,740人

•世界

感染者数 498,154,313人 死亡者数 6,176,420人

- →発症予防効果70%で、東京では300万人余、全国では1600万人余 が感染しない可能性?
- →重症化予防効果90%で、東京では38,000人余、全国では258,000人 余が死亡しない可能性?